

会報

こぶし

発行 花北地区
コミュニティ協議会
編集 総務企画部



令和3年度を振り返って

花北地区コミュニティ協議会 事務局長 盛岡耕市

令和3年度も、新型コロナウイルスに明け、12月に回復の兆しが見えたかと思つたのも束の間、オミクロン株の出現で、また新型コロナウイルスに暮れることとなりました。

平成27年度に当協議会の事務局長に就いてから6年となります。

毎年様々な事業を通じて、花北地区の皆さんが集う姿を拝見し、事務局長としていろいろ見聞きしながら協議会の事業が地域に果たす役割について考えてきました。

当コミュニティ協議会の事業は、「花北地区コミュニティ計画」に定められた6つの体系の町づくりを実現する、ということを踏まえて行われています。

特に、協議会事業の中で、市か

らの交付金を財源として実施している「地域づくり交付金事業」については、前述のコミュニティ計画を踏まえた各自治会（町内会）の皆さんからの事業提案と、協議会内に設置している5つの専門部の皆さんからの事業提案をもとに事業を行っています。

事業実施にあたって、各自治会（町内会）の皆さん及び各専門部の皆さんの協力に常日頃から感謝しております。

実施される事業内容は、ゴミ集積所の更新など地域の皆さんの生活環境の改善につながる事業や、街路灯の整備など地域の安全安心につながる事業等のハード事業と、各種スポーツ大会、文化祭等地区の皆さんが交流したり、集う場所

を作り出すことを目的としたソフト事業に分かれます。これらのハード事業とソフト事業は「車の両輪」のごとくバランス良く実施することが、より良い地域づくりに資するものとも考えています。

しかし、ここ2年間は、コロナウイルス流行の影響でソフト事業の中止が相次ぎ、令和2年度は、予算の段階ではソフト事業の比率が約38%だったものが、決算では、約16%に、令和3年度は、予算の

を振り出すことを目的としたソフト事業に分かれます。これらのハード事業とソフト事業は「車の両輪」のごとくバランス良く実施することが、より良い地域づくりに資するものとも考えています。

今年度の教育文化部事業について

世界的なコロナパンデミックは新たなオミクロン株となりその猛威を振るっています。

今年度も花北地区文化祭は開催できませんでしたが、感染者数の減少の中で二つの事業を実施することが出来ました。一つは従来から親しまれてきた盆栽教室であり、もう一つは第7回花北地区文化講話会でした。

盆栽教室については、コロナ感染拡大状況の様子を見ながら当初予定の開催時期を変更して実施し

段階ではソフト事業の比率が約40%だったものが、決算見込みでは、約20%にそれぞれ縮小せざるを得ない状況です。

来る令和4年度は、コロナウイルス流行が完全に終息して、地区の皆さんが集うソフト事業が計画通り実施できる日が1日も早く来ることを、そしてソフト事業とハード事業がバランスよく実施でき、より良いまちづくりのための事業ができるようになることを、心から祈っています。

教育文化部 部長 松田廣邦

ました。従来の取り組み（同趣向好の方々作品持ち寄り）と親睦に加え、初心者へのアプローチの必要性を提起し、受講生全員に盆栽の台木を無料提供すること及び用土・肥料・道具の準備を行う等、誰でも気軽に受講できる環境づくりを行いました。将来展望としてコロナ収束後の文化祭開催時に初心者用作品展示コーナーを設け、ベテランの作品と共に鑑賞戴くことを構想しております。今回の受講には一般会員の外に教育文化部